

平成28年度版

# 『現代の国語』

教

科

書

特

集

号

特集

「学び方」を  
学び、  
活用する。

平成28年度版

## 『現代の書写』

26～31ページで解説

# ともに学び、 ともに生きる。

平成28年度版

『現代の国語』『現代の書写』刊行にあたって

「知識基盤社会」「情報化社会」「グローバル化社会」の本格化・高度化を迎え、私たちは今、これまで誰も経験したことがない、複雑で激しく変化する時代を生きています。身の回りの問題をも、地球規模の課題をとっても、学校や職場で学んだ既存の知識や技能をそのまま使って解決できる問題は少なくなってきました。知識・技能の習得や正解のある課題が解けることを学びのゴールとするのではなく、状況に応じてそれらを選択し組み合わせ活用し、正解の見えない課題に対しても、価値観の異なる他者とコミュニケーションをとりながら

協働的に解決をめざす資質や能力が、社会を構成する私たち一人一人に必要とされる時代を迎えているといえるでしょう。こうした資質や能力の基盤となるのが「ことばの力」です。平成28年度版『現代の国語』『現代の書写』は、生徒たちの今、そして未来を生きる力に培う「豊かなことばの学び」を実現し、その学びの体験をとおして、知り、考え、実行し、ともに学び、ともに生きるための「豊かなことばの力」を育成する、21世紀型の学習プログラムを提案します。

豊かなことばの  
学びを実現し、  
豊かなことばの  
力を育成します。

『現代の国語』『現代の書写』編集委員会

## CONTENTS

# ことばの学び

KOTOBA NO MANABI

2 平成28年度版  
『現代の国語』『現代の書写』  
刊行にあたって

### 国語

4 『現代の国語』の特色  
6 「学び方」を学び、活用する。  
教科書での提案  
8 〈A〉読む「読み方を学ぼう」  
9 教科書紙面「三角ロジック」  
10 教科書紙面例「人物相関図」

### ペンギンの 防寒着

実物見本

11 教科書紙面例「段落の大小」  
12 「読み方を学ぼう」活用例  
16 教科書紙面例「説明文の基本構造」  
20 セット教材の効果  
熊本大学 河野順子  
22 〈B〉話す・聞く、書く「汎用的能力の育成」  
25 〈C〉資料編「学ぶ力を高めよう」

### 書写

26 『現代の書写』の特色  
28 学びをひらく楽しさ  
30 広島大学 松本仁志  
行書の学び  
香川大学 小西憲一

32 人と環境にやさしい教科書づくり  
33 デジタル教科書・指導書などのご案内

Design  
宮内 佑  
Cover illustration  
武政 諒



教科書は  
こう変わります!

平成28年度版 中学校国語教科書

# 『現代の国語』の特色

21世紀型の学習プログラム

## 1 「学び方」を学び、活用する

課題を解決する方法や思考のポイントを、図解やモデルによって、わかりやすく提示しました。新たな学習へ取り組むとき、習得した学び方が活用できるように促し、主体的に学ぶ力として定着するようにしています。

## 2 「見通し」と「振り返り」を明確化

教材の冒頭には「つきたい力」を明確にした学習目標を提示し、教材末には学習を振り返る機会を設定しています。確かな目的と見通しをもってスタートし、一貫した課題意識によって学習を進め、身についた力を振り返り、次に生かすプロセスを重視しました。

## 3 協働で学ぶ

個の確かな学びを保障しつつ、異なる考えをもつ他者と協働して課題を解決したり、合意を形成したりする学習活動を設定し、多様な価値観の中で、ともに生き、よりよい社会を創り上げるための基礎を、楽しく体験的に学べるようにしています。

## 4 実践力を身につける

学校生活、日常生活につながる課題を積極的に取りあげ、実生活で生きて働く実践的なことばの力を育成します。学習の文脈に即した多様な言語活動をとおして、社会で求められる知識や技能、ものの見方や考え方を育みます。

## 5 小・中の連携をデザイン

第1学年の冒頭では、小学校で学んだことを想起しつつ、円滑に中学校の学習を始められるよう、難易度の設定や学習のデザインに配慮しています。その後、中学校ならではの学習へと無理なく引き上げ、成長の実感を味わえるように工夫しています。

1年  
「空」



2年  
「山」



3年  
「海」



未来をひらく  
ことばの学びの旅へ

各学年の表紙は、武政諒さんのイラストレーションにより、中学校の3年間にわたる「ことばの学び」を、仲間とともにすすめる冒険の旅にたとえて表現しています。

今回の「ことばの学び」では**1**『学び方』を学び、活用する」を特集します。

# 「学び方」を学び、

## 活用する。教科書での提案

plan

# A

読む

## 読み方を

## 学ぼう

読むことの主教材では、「学びの道しるべ」に関連して学習できるさまざまな「読み方」を取りあげて確認するためのコーナーを設けました。3年間で17の方略を設定しています。



plan

# B

話す・聞く、書く

## 汎用的な

## 能力を育成



plan

# C

資料編

## 学ぶ力を

## 高めよう

国語科の学習のみならず、他教科や日常の言語生活でも活用できる、さまざまな学びの方法を資料編にまとめました。



多様な言語活動を支える汎用的な能力の育成を目指しています。協働の学びを楽しみながら、思考力・コミュニケーションの力を高めます。

● 全17の方略一覧

1年	2年	3年
1 説明文の基本構造	1 詩の構成 気持ちを揺さぶる仕掛け	1 隠された意味 国語辞典に載っていない意味
2 人物相関図 鳥の目になって	2 象徴 そこには何かが詰まっている	2 対比 比べることで明確に
3 図表と文章 説得力は文字以外でも	3 段落の大中小 まとまりを探せ!	3 回想 時は行きつ戻りつ
4 三角ロジック 主張・事実・理由づけ	4 物語の転換点 予想外の曲がり角	4 小見出し 要点をひとめで
5 語り手 語っているのは誰?	5 例示 「なるほど!」と言わせたい	5 人物設定 仕組まれた関係
6 情景描写 書かれていない気持ち	6 視点人物 世界が違って見えてくる	

plan

A

# 読む 読み方を 学ぼう

読むことの「技・こつ」(方略)を実践的に習得し、次の読むことの学習や表現、日常の読書活動に活用します。

「声に出して読む」「繰り返し読む」だけでは読む力は伸びません。読解力育成のためには、読み手による積極的な働きかけ(方略)が必要であるとされています。

「読み方を学ぼう」では、「構造に留意して文章全体を俯瞰的に捉える」(例示(具体と抽象の往還)の効果・意図を押さえて主張を捉える)、「象徴表現を捉えて直接書かれていない心理や事象を推測する」(ことばの多重的な意味作用(デノテーション/コノテーション))を認識してイメージを形象化する」など、汎用性が高く、思考を駆動する方略を抽出し、平易な解説と図

解を組み合わせて、学びやすいかたちに教材化しています。

読解(熟考・解釈・評価)は、思考と表現とが統合されることによって深化します。「読むこと」の学習過程に、「説明」と「交流」という言語活動を

組み込み、読解したことを自分のことばで説明したり、他者と意見交換・相互評価する場を設けたりすることがより効果的な読解力向上につながります。「説明」「交流」の場においては、思考を可視化し、それを共有する手立て・ツールが有効です。「読み方を学ぼう」の図解は、そのためのモデルの役割も果たしています。

## 「読み方を学ぼう」のしくみ

全ての方略は、「読むこと」教材(一部の古典教材を含む)の学習目標を達成するために設置された「学びの道しるべ」の課題(言語活動等)と組み合わせられています。

● 読むこと教材の本文



(「玄関扉」1年P.124)



「学びの道しるべ」に示された課題との関連で学習するしくみです。



● 説明「玄関扉」(渡辺武信)の読むことの学習において設定されているページです。

平成28年度版『現代の国語』1年 読み方を学ぼう ④ (P.124)の教科書紙面

● 説明「人間は他の星に住むことができるのか」(渡部潤一)の読むことの学習において設定されているページです。

## 読み方を学ぼう ③

視点人物 例示 物語の転換点 段落の大中小 登場 詩の構成

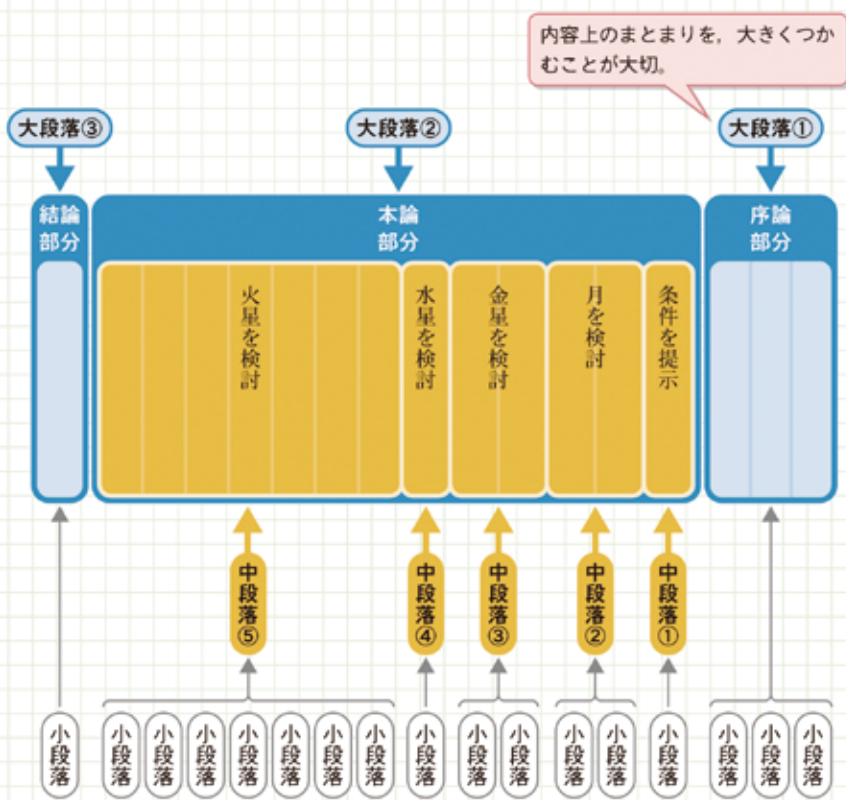
### 段落の大中小

まとまりを探せ！

段落とは、ふつう、改行と一字下げによって表されます。この最小単位の段落を小段落（形式段落）といいます。小段落がいくつか集まって、内容上のまとまりをつくる段落を大段落（意味段落）といいます。小段落一つで大段落をつくる場合もあります。また、大段落の中に、小さな内容上のまとまりをもつ中段落を考えることもできます。

▼段落の大中小に注意して読むと、本文全体の論理の組み立てが明確に理解できる。

● 「人間は他の星に住むことができるのか」の段落



● 物語「空中ブランコの乗りのキキ」(別役実)の読むことの学習において設定されているページです。

## 読み方を学ぼう ②

場面描写 語り手 三枚ロケット 物語と文章 人物相関図 読解文の書き換え

### 人物相関図

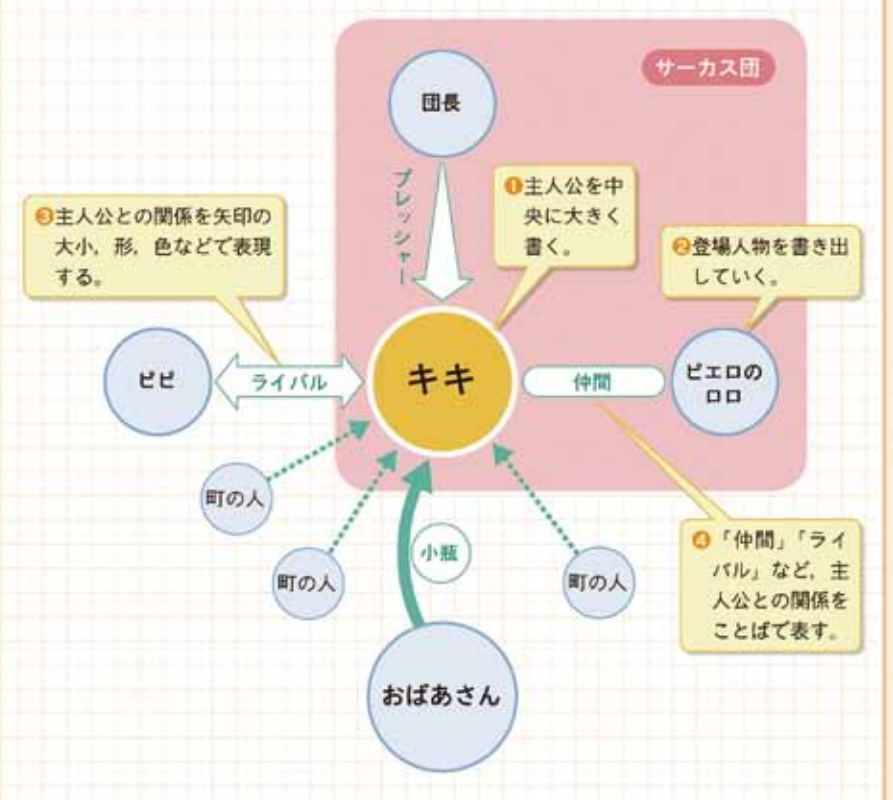
鳥の目になって

人物相関図とは、小説、映画、ドラマなどの登場人物たちの関係を一枚の図にしたものです。「空中ブランコ乗りのキキ」では、どのような人物がどのように主人公キキと関係しているでしょうか。

人物相関図を作ること、物語全体を高いところから眺めるように把握することができ、物語の理解が深まります。

▼人物相関図を作ると、物語の展開のしくみやおもしろさがよくわかる。

● 「空中ブランコ乗りのキキ」の人物相関図



●ねらい

「人物相関図」は、小説、ドラマ、アニメ、ゲームなどにおける登場人物の関係を一枚の図にして表したもので、作品を分析・理解する手立てとなるものです。

「勉強の仕方がわからない」「どうやって力を伸ばせばいいかわからない」などと言及されがちな文学教材の学習に、読解方略（読み方・読解の手立て）の一つとして設定しました。

「人物相関図（の作成）をとおして読解を深める」という言語活動に取り組むことで、俯瞰的な見方（メタ認知）や論理的な思考（関連付け／分析／分類など）が駆動し、内容理解が促進されます。このように、可視化された具体的な方略を自覚的に用いて、その読解効果を体験すること、「わかる」「使える」という実感をもって読解力を高めていくことができます。

●活用場面——学習の文脈

「なぜここで方略を使うのか」「方略を使うとどのような効果があるのか」という学ぶ意義と有効性を生徒が理解・納得できる学習の「文脈」をデザインすることが重要です。

「人物相関図」を用いた学習場面として、ここでは、A「単元前半で内容の情報整理を行うときに使う」、B「単元冒頭の導入で使う」、C「単元後半で作品を読み深めるときに使う」の三つを想定しました（※Cは省略）。

ここで習得した方略は、その後の「竹取物語」「少年の日の思い出」「一年」「小さな手袋」「走れメロス」「二年」などの文学教材の学習で活用することができます。

また、教室以外の学校生活や日常の読書活動において、あるいは、テレビドラマや映画などを視聴する場面において、適宜活用することによって、方略はより汎用性が高まります。「いつでも」「どこでも」「自ら」使えるもの、使いたくなる実践的な技として、生徒の自立性・主体性を支えるものとなります。

「読み方を学ぼう」活用例①

「いつ・どこで・どのように」使うか

1年物語  
「空中ブランコ乗りのキキ」  
+  
読み方を学ぼう  
「人物相関図」

▼本書 P.10

A  
通読直後に使う

内容の情報整理を行う場面で使う  
↓教科書 P.63 学びの道しるべの「1」の課題参照

1 読んだ物語の登場人物同士の関係を図で表したものが64ページにあります。このような図を「人物相関図」といいます。  
①～④は人物相関図をつくるときのポイントです。

2 物語を振り返りながらこの図を見てください。

この図はどのような工夫をしているのでしょうか？

3 この物語の登場人物について、「人物相関図」を使って、キキとの関わりを中心に説明（紹介）してください。

〈まとめ〉

「人物相関図」は、登場人物がたくさん出てくる物語や小説などをよりよく理解する「技」となります。今後、小説を読んだりドラマを見たりするときに使えることを紹介して、日常生活などでの活用を促します。

説明と質疑応答により、内容理解の状況を評価する。

矢印や円の大きさ・形・色についての気づきなども引き出しながら意見を交流させる。

B  
単元冒頭に使う

導入の場面で使う

1 64ページのような図を見たことがある人はいますか？

このように登場人物の関係が描かれた図を「人物相関図」といいます。

2 この図から、どんなことがわかりますか（どんな物語が予想できますか）？

この図は未完成な部分もありますし、

物語を一度も読んでいないとわからないところもあります。

例えば、この点線の矢印はどんなことを表しているのかわかりませんか。また、「口口」や「おばあさん」ってどんな人物なのでしょう？

3 使い慣れると、何もなかったところから自分で図をつくっていくのですが、

最初ですから、今回は、これを使って読んでいきたいと思えます。

では、この「人物相関図」を頭に描きながら、

「空中ブランコ乗りのキキ」を読み、相関図を完成させましょう。

〈まとめ〉

読解後に完成させた相関図をもとに、原図の改良点や工夫点（例）矢印の形や向き、大きさなどで読解した内容がどのように表現されているかなどを交流します。「人物相関図」という「技」がどのように読解に役立ったかを振り返ることも重要です。

朗読音源や範読を用いて、人物相関図にメモを書き入れながら聞く活動も有効です。

質問には正解がないものもありますが、ここでの活動は、読むことへの動機を高めるとともに、学習スキーマを活性化することを目指します。



●ねらい

「段落の大中小」は、説明文の文章構造に着目する方略です。具体的には「各段落が文章全体の中で果たす役割についてとらえ、叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているかなどを考えながら読む」「(中学校学習指導要領解説 国語編)力を高める手立てとなります。

従来、説明的文章の授業においては、ここで図解した段落構成のしくみ(▼本書P.11)を「答え」とする学習活動が多く行われてきました。しかし、今、とくに中学校の授業で求められているのは、そうした小学校での学習を踏まえて、その次の段階の学習——「なぜ、筆者はそうした段落構成の文章を書くのか」について、自分で思考し、それを評価する学習です。

ここでは、文章構造を俯瞰的に見る視点をもとに、文章の全体と部分の関係を把握します。それにより、要旨を捉えるとともに、筆者の構成の工夫(筆者の思考と表現の方略)を解釈し、熟考・評価するという、現代の生徒に「つきたい力」を明確

にした学習を実現します。

●活用場面

「段落の大中小」の学習として、ここでは、A「単元冒頭の導入で使う」、B「単元後半で筆者の表現上の工夫について考えるときに使う」という二つを想定します。(※Bは省略)

また、習得した方略は、「動物園でできること」「(2年)「間の文化」「情報社会を生きる」「(3年)などの評論や論説教材の学習、および「プレゼンテーション」「パネルディスカッション」「主張文」「(2年)、「小論文」「ブックトーク」「企画会議」「(3年)などの「話すこと・聞くこと」「書くこと」における表現学習で活用することができます。



「読み方を学ぼう」活用例②

「いつ・どこで・どのよう」に「使うか

2年説明

「人間は他の星に住むことができるのか」

+

「段落の大中小」

▼本書P.11

A  
単元冒頭  
に使う

導入の場面で使う

1 今回扱う「技」は「段落の大中小」です。41ページを開けてください。

2 図を見て次の質問に答えてください。

質問1 これは何についての、どのような説明文なのでしょう？

質問2 大段落1(序論)、大段落3(結論)に中段落がないのはなぜでしょう？

質問3 大段落2(本論)の五つの中段落は、それぞれいくつの中段落からできていますか？

質問4 「火星を検討」という中段落が、その他の中段落よりも、多くの小段落からできているのはなぜでしょう？

質問5 「火星を検討」の中段落の前に四つも中段落があるのはなぜでしょう？



質問6 このようにして、段落を大中小のまとまりにして、「入れ子構造」にするのはなぜでしょうか？

文章をこのような構造にして説明することの

筆者の意図や効果を考えてください。

3 それでは、実際の文章がどのようなものかを、読んで(聞いて)確かめてみましょう。

(本文通読後/聞き取り後)さて、何について書かれた文章でしたか？

文章全体の「入れ子構造」を考えながら読んでみて(聞いてみて)、

内容を理解しやすかったですか？ どのようないところがあったか、

新しく体験したり発見したりしたことを、グループで話し合ってみましょう。

4 「段落の大中小」を読み手の「技」として使いましたが、この「技」は、皆さんが文章を書くときにも使える「技」です。

「技」によってつかんだ情報を、「学びの道しるべ」の課題「1」「2」で、

確かめながら振り返りましょう。

聞く活動の場合は、41ページの図にメモをしながら聞きます。

質問には正解がないものもありますが、ここで  
の活動は、読むことへの動機を高めるとともに、  
学習スキーマを活性化することを目指します。

参 考

汎用的な能力の育成

ここで学ぶ「入れ子構造」は、文章読解や文章表現の方略であるとともに、ものごとをわかりやすくまとめたり、人に伝えたりするために、要素ごとに分割し、それらを順序立てたり、分類したり統合したりして整理するときの基本的な思考法・表現法でもあります。

「読み方を学ぼう」では、この他にも(例示(具体と抽象)「対比」など、実生活において汎用性の高い思考法や表現法を扱います。これらは、国語科の授業だけでなく、他教科や学校外の日常生活のさまざまな機会に繰り返し活用することによって、読解力(理解力)・思考力・表現力を統合的に高めるとともに、問題解決力や批判的思考力などの汎用的・実践的な高次の認知スキルを支えるものとなります。



# ペンギンの防寒着

上田 一生

## 序論

背景説明

南極のペンギンたちは、真冬にはマイナス六〇度にもなる厳しい寒さの中で暮らしています。人間であれば、ダウンジャケットや厚手のコートなどは外に出ることさえできない寒さです。

ペンギンたちはどのようにしてこの厳しい寒さをしのいでいるのでしょうか。彼らの体に備わった保温のしくみを探っていきましょう。

5

問いをつかむ

● 問い（問題提起）に注意して、どのような問題について述べている文章なのかをつかみましょう。

順序を表すことば

● 「一つめは」「第一に」「まず」などの順序を表すことばに着目して、文章の展開を追いかけていきましょう。

本論 1

一つめは羽根です。ペンギンは鳥類に属していますが、その羽根は空を飛ぶ鳥のものとは少し違います。一枚一枚の羽根が小さくびっしり生えています。ペンギンの体をほぼすき間なく覆っているこの羽根は、水にぬれたり海中に潜って水圧がかかったりすると、まるで全体が一枚の柔らかい布のよ

うにつながるといしくみになっています。つまり、ペンギンの羽根は、防水性のコートやウエットスーツの役目を果たしているのです。一枚の皮のようになった羽根は、外からの寒さを防ぐとともに、その下の皮膚との間に空気を閉じこめて、体温の低下を防ぐ空気の層をつくります。成鳥のペンギンの場合、保温効果全体の八〇〜九〇パーセントが、こうした羽根のしくみによるものとされています。

5

それでは、まだしっかり羽根の生えていないヒナの場合などではどうなるのかと疑問を抱く人もいるでしょう。

その疑問を解決するのが二つめの保温のしくみ、脂肪層です。例えば、キングペンギンのヒナの場合には、体重の約四〇パーセントを占める脂肪層が保温効果の主役となります。

10

## 本論

本論 2

この脂肪層は、ヒナだけでなく成鳥のペンギンにとっても重要なのです。例えば、エンペラーペンギンの場合は、マイナス六〇度・秒速五〇メートルを超える吹雪の中、卵やヒナをお腹のたるんだ皮で覆うようにして温める

具体的な数字や名前

● わかりやすくしたり、説得力を高めたりするために、具体的な数字や名前を示しています。それらが何を説明しているのかを捉えましょう。

予想される反論

● 予想される反論を示して、読み手を引きこむ工夫をします。



結論

このように、ペンギンは、脂肪層、皮膚、空気層、羽根、羽根に塗られた脂という、いわば五枚の層によってつくられた高性能の防寒着に身を包んで寒さから身を守っているというわけです。

10

〈この教科書のための書きおろし〉

本論

本論 3

のですが、子育て時の親鳥の皮の脂肪層の厚さは二〜三センチメートルにも達します。

保温のしくみの**三つめ**は羽根に塗る脂です。ペンギンは陸上でも海上でも時間があればいつもくちばしで羽根の乱れを直します。尾羽根のつけ根の器官から出る脂をくちばしですくい取っては、羽根の表面に塗りつけているのです。羽根に脂を塗るといふ行動は、冷たい海の中に潜って餌となる魚をとるときにはいっそう重要性を増します。もし羽づくろいをせず、羽根の表面を覆う脂がなければ、水中で熱を奪われる量は倍増してしまうという研究データがあります。

5

問いと答え

● 「問い」と「答え」の関係に注目して、全体の構成を確かめましょう。

教科書紙面  
(原寸大)



導入教材

# 「ペンギンの防寒着」

\*前ページ参照

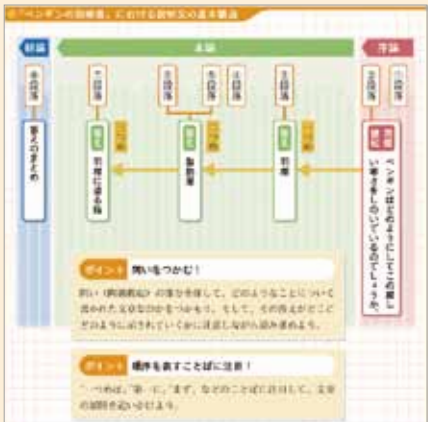


本教材

# 「クジラの飲み水」

「読み方を学ぼう①」

## 説明文の基本構造 「ペンギンの防寒着」



●「ペンギンの防寒着」を用いて「説明文の基本構造」を確認し、次の本教材「クジラの飲み水」の学習へと進めます。

クジラの飲み水

「クジラの飲み水」は、クジラがどのようにして水を飲むのか、その仕組みについて詳しく説明しています。クジラは、水を飲むときに、口を開き、水を吸い上げ、喉の奥まで送り込みます。その後、水を飲み込み、胃の中で消化します。この仕組みは、クジラが生き延びるために必要不可欠なものです。

クジラは、水を飲むときに、口を開き、水を吸い上げ、喉の奥まで送り込みます。その後、水を飲み込み、胃の中で消化します。この仕組みは、クジラが生き延びるために必要不可欠なものです。

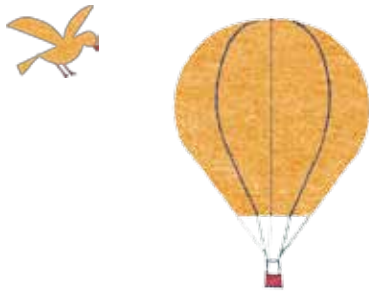
クジラは、水を飲むときに、口を開き、水を吸い上げ、喉の奥まで送り込みます。その後、水を飲み込み、胃の中で消化します。この仕組みは、クジラが生き延びるために必要不可欠なものです。

「クジラの飲み水」を読むときに、「ペンギンの防寒着」で学んだ読み方の、どんなところを活用したか、発表し合おう。

### 学びの道しるべ

●活用した学び方を確認するための課題です。

■「クジラの飲み水」の「学びの道しるべ」の課題(一部)



# セット教材で

# 学び方を学ぼう



熊本大学 河野 順子



## 生

生徒たちはどうして自主的、意欲的に学ぼうとしないのかと、悩みを抱えている先生方も多いと思います。しかし、そもそも生徒たちは何をどのように学べばよいかというところが分かっていないのでしょうか。また、生徒たちがこれまで学んできた教科内容（教科固有の知識や学び方）を生かした授業、つくりがなされているでしょうか？

生徒たちが自分の既有知識をどのように活用できるかは大変に大きな課題です。PISA調査で日本の高校生は習得した知識や技能を活用する力に課題が見つかりま

した。現在行われている全国学力調査でも、こうした力の育成が依然として課題となっています。こうした現状を受けて、学習指導要領では活用力の育成が重視されています。

説明的文章の学びを苦手とする生徒は多いといわれます。その原因の一つとして、教師から「要点は？ 要旨は？」という一方的な問いかけのもとに文章構成の型を教え授けられるような授業が多いことがあげられるでしょう。このような知識伝達型の学びは生徒の主體的な学びを阻害してしまっています。

こうした現状に対して、私はセット教材による比べ読みが有効であると考えています。結論的に言えば、それは生徒たちに学び方を自覚させ、主体的な学びを実現すると共に、学校知にとどまることなく、生活に生きて働く活用力を育成することになります。

この際、説明的文章を学ぶ目的をどう捉えるかが重要です。私は次のように捉えたいと思います。つまり、「説明的文章とは、筆者が生活、自然、社会、世界をめぐって何か揺さぶられること、広く訴えたいことがあって、それを読みに手に伝えるために論理展開や表現

を工夫している文章である」と捉えます。したがって、説明的文章の論理展開や表現には筆者独自のものの見方や考え方が反映されています。生徒が説明的文章を学ぶ目的は、こうした筆者の見方・考え方・述べ方に出会うことを通して、自分なりの見方・考え方・述べ方を形成することであると考えられます。

このように説明的文章の学習指導の目的を捉えると、説明的文章の学びでは、筆者の述べ方（論理展開、表現）に着目していくことが必要となります。説明的文章の学びで児童・生徒

につまずきが出てくるのが小学校三年生以降、つまり文章構造が複雑になってくるときです。こうした時期から、文章の基本構造をどう読み取らせるか、筆者の述べ方の工夫から筆者の見方・考え方をどう捉えさせるかという学習指導の工夫が必要となります。

平成28年度版『現代の国語』では、第一学年の説明的文章の導入にセット教材が設定されています。「ペンギンの防寒着」によって、生徒たちに序論の問題提起文を捉えさせ、筆者は、この問題提起を解決するためにどのような事例をどのような論理展開で述べ、結論部分を導いているのかを読み取る

せることが重要となります。本文は、「ペンギンたちはどのようにしてこの厳しい寒さをしのいでいるのでしょうか。彼らの体に備わった保温のしくみを探ってみましょう。」という問題提示文に対して、本論で一つめは羽根、二つめは保温のしくみとしての脂肪層の役割、そして、三つは羽根に塗る油という順序性の論理で結論

部分が提示されていることを捉えさせることが説明的文章の学び方を学ぶうえで重要になります。

こうした学び方を学んだ生徒たちは、次の「クジラの飲み水」を深く読み取るために、まず筆者はどんな問いを問題提示文として提示しているのかを見つかることで

しょう。すると、形式段落⑤段落に、「いったいクジラはどのようにして飲み水を飲んでいるのでしょうか。」という問題提示文を見つけましょう。そして、この問題提示文に対して、どんな事例がどのように論理展開されて結論が出されているのかという読み取り方への関心をもって読み取りを進めることとなります。すると、生徒はまず「このように、クジラは人間と同じ哺乳類でありながら、『飲み水』としての水を飲むことがない。生きるために必要な水は自分の体内で作られ、その水分をできるだけ失わないようにして暮らしているのである。」という結論部分を見つけてしょう。

この意外な結論に、生徒たちは、

「筆者はどのような事例をあげて、どのように説明していったのだろうか」と筆者の論理展開を追うことになるでしょう。実は、筆者の論理展開を追うことは謎解きのような面白さを生徒たちに投げかけてくれるものなのです。

筆者の論理展開を追うと、生徒たちは、筆者である大隅氏は、「第一に考えられるのは、クジラは、塩分の多い海水を飲むことができるとはならないかということだ」というように、自分たちも推論しやすい事柄から問題の解明を図ろうとしていることに気づくでしょう。そして、「第二に考えられるのは、クジラは食べ物となる生物の体の中に含まれる水分を利用してはならないかということである」という推論へと続いていき、論理展開の順序性には意味があることを感じ取るでしょう。最後に「クジラが自らの体内で水を作るといえることになる」という推論を出していることに気づき、自然の不思議さに驚きをもつことでしょう。第一教材である「ハンギ

ンの防寒着」で順序性の論理展開を学んだ生徒たちは、筆者の問題解明の順序性に注目しながら学んでいくに違いありません。こうした学びが生徒たちに説明的文章の新たな魅力に気づかせていくことにもなるのです。

セット教材の学びは、筆者が自然や社会、人間、生活に対して、どのような問いを持ち、それをどう解明していったのか、その謎を解明する論究の面白さを生徒たちにもたらしすのです。

## かわの・じゅんこ

熊本大学教育学部教授。著書に『〈対話〉による説明的文章の学習指導—メタ認知の内面化の理論構築を通して—』（2006、風間書房）、『入門期のコミュニケーションの形成過程と言語発達—実践的実証的研究—』（2009、溪水社）、『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 中学校編』（2014、明治図書）など。

● 1年の各教材を紹介します。

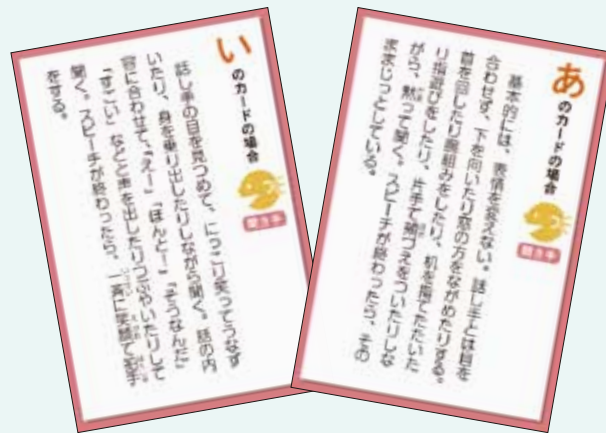
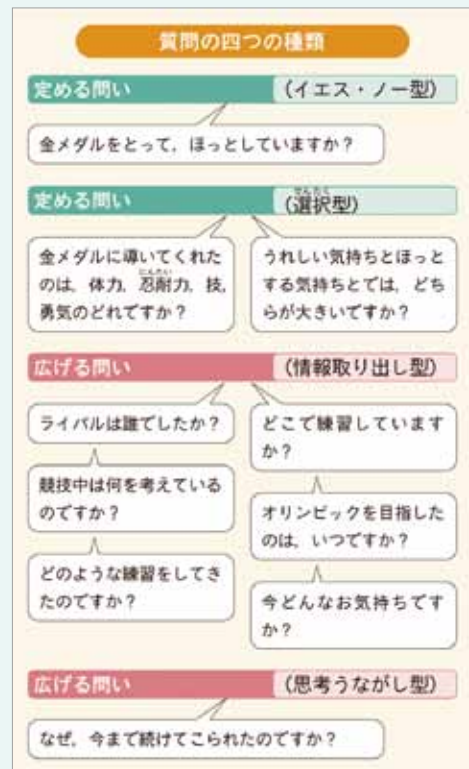
「書くこと」教材の学習過程にも  
「質問・対話」のプロセスを設定するなど、  
アクティブ・ラーニングの場を  
各所にデザインしました。

「対話・相談・会議」などの  
協働的問題解決(言語活動)の基盤となる  
場づくりやスキルを習得し、活用します。



↑1年「意見文 思いや感覚に向き合い、  
考えを確かなものに」(P.184)  
※意見をつくる過程に「対話」を組み込んでいます。

↓1年「質問 チームの力を引き出す」(P.68)  
※質問の4つの種類の話型や使い方を説明しています。



↑1年「スピーチ 聞き上手、話し上手になるために」(P.25)  
※聞き手と話し手が相互に影響し合っ  
て場をつくっていることを実感できる教材です。

# plan B

## 話す・聞く、書く 汎用的な 能力を育成

「何を」「どのように」学ぶのかを明らかにして、  
協働の学びの基盤となるスキルや汎用的な思考力・  
表現力を、実践的に身につけます。

「学び方を学ぶ」ためには、①「何を」  
どのように何のために行うのか/これ  
から行う学習(活動)の着地点・到達  
点がどこにあるのか」を明確にするこ  
と、②それらを指導者と生徒が共有  
し、予測・確認・調整しながら学習を  
進めること、③学習活動を振り返り自  
己評価すること(自分のことばでまと  
めること)が重要です。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」  
の教材では、学習の流れに沿って、わ  
かりやすくレイアウトされた「身につ  
けたい知識・方法のポイント化」「モ  
デルの提示」「思考プロセスの図解(可  
視化)」が、①②③の実現のために有効  
にはたります。

表現領域の学習のポイントは、思考  
力と表現(コミュニケーション)力を  
統合したかたちで育成することにあ  
ります。各教材の学習過程には、質問、  
対話、相談、ブレインストーミング、  
編集会議などの協働的、課題解決的な  
言語活動が組み込まれており、思考力  
と表現力を実践的・効果的に統合する  
学習が展開します。

これらの活動で体験する「協働の有  
効性や楽しさ」は、獲得した力や方法  
を次の機会に活用する動機を促進し、  
主体的な学習サイクルを生みだしま  
す。

### 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材例

- [1年] 討論ゲーム 論理で迫るか、感情に訴えるか(P.136)
- [2年] 主張文 推論と対話で考えを広げる(P.88)  
\* 防災学習
- [2年] 地域情報誌 ふるさつを見つめ直す(P.216)  
\* 地域活性化
- [3年] 企画会議 合意を形成し、課題を解決する(P.96)  
\* 地域活性化
- [1年] 即興劇にチャレンジ(P.188) \* インプロ・ゲーム
- [3年] ビブリオバトル(P.71)
- [3年] ワールド・カフェ 問いをもとに語り合う(P.181)

ゲームやシミュレーションを  
とおして、思考や表現の方法を  
体得・トレーニングするプロ  
グラム。

地域コミュニティとの  
連携・協働。

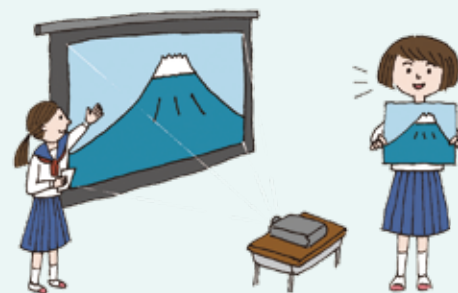
協働の学びの新しい流れ  
(実践)を積極的に教材化。

● 2年・3年の各教材を紹介します。

よい例と悪い例 モデルと自分の表現を比較することで、到達レベルを確かめながら、自己評価・自己調整を行うことにより、適正かつ実践的な力を身につけます。

悪い例	よい例
<p>海外に日本のよさを紹介するなら、やはりこれらの美しい自然です。私たちが世界に誇れる美しい自然は私たちの財産といえるでしょう。この風景を世界の人々に紹介しつつ、この美しさがいつまでも続くようにみんなで守っていきましょう。</p>	<p><b>美しい自然</b> →私たちの財産</p> <p>●世界の人々に紹介しつつ、みんなで守っていきましょう。</p>
<p>1枚のスライドにたくさんの情報を盛り込まない。文字量は、1枚に1～5行、1行の文字数にして5～15字程度を目安とする。</p>	<p>キーワードが引き立つような色使いや文字の大きさにする。</p>
	<p>発表のときは、書いてあることを読み上げるのではなく、示していない情報も加えて、聞き手に印象深く伝える。</p>

↑2年「プレゼンテーション 資料や機器を効果的に活用する」(P.42)  
※生徒が作成するスライドやフリップの例として「改善が必要な例」と「よい例」を並べて提示しています。



**文章構成のバタン**

① 小論文は、結論・本論・結語の3部構成とする。

② 本論を書く前に「結論」を先に書いて、本論・結語・結論の順で書く。

③ 100字程度の少ない字数の場合は、結論・本論・結語の順で書く。

④ 100字以上の場合は、結論や主張を最初に書く。

⑤ 結論や主張を最後に書く。

⑥ 結論や主張を最初に最後に書く。

↑3年「小論文 論理の展開を工夫して、説得力をもたせる」(P.46)  
※文章構成のバタンの提示とともに、それぞれの構成で書かれた文章を提示しています。

**小論文のモデル**  
※400字の場合

① 尾語型 三段構成 (序論・本論・結語)

よい例とはなんだろう。素晴らしいのは、現代社会の中で「よい例」として「物々々々々々」を「いい例」として「いい例」の三つをあげて、いかに「いい例」に近づけるか、というところが、この文章の肝になる。よい例が、どうして「いい例」になるのか、という点から、本論に考えていくように見える。結論・本論・結語の順で書く。結論・本論・結語の順で書く。結論・本論・結語の順で書く。

② 序論型/三段構成

私は、友達は相手からの行動を持っていて、自分から何かを返してあげたい。そのためには、自分から何かを返してあげたい。そのためには、自分から何かを返してあげたい。そのためには、自分から何かを返してあげたい。

# plan C

## 学ぶ力を高めよう

### 資料編

言語活動を支える思考方法や活動の方法、知識を資料編「学ぶ力を高めよう」にまとめています。

国語科のみならず、他教科や日常生活などのさまざまな学習において、確認・活用ができるよう、思考方法や活動の方法、知識をまとめた「学ぶ力を高めよう」のコーナーをつくっています。



**方法1** さまざまな思考方法を使う

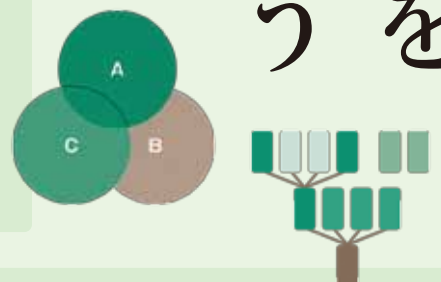
- 〔1年〕発想シート・マトリックス
- 〔2年〕ロジックツリー・図解
- 〔3年〕図解ほか

**方法2** メモを活用する

- ① 聞き取りメモ
- ② アイデアメモ
- ③ スピーチメモ
- ④ 伝言メモ

**方法3** インタビューをする

**方法4** アンケートをとる



**方法5** 話し合いの方法を選ぶ

- ブレインストーミング
- バスセッション
- ディベート
- 会議
- ポスターセッション
- シンポジウム
- ワールド・カフェ
- パネルディスカッション

**方法6** 図表(表やグラフ)を使う

- 〔1年〕表・棒グラフ・折れ線グラフ
- 〔2年〕複合グラフ・帯推移グラフ
- 〔3年〕補助付き円グラフ・バブルチャート・散布図

**方法7** 辞典を活用する

- 〔1年〕「国語辞典」「漢和辞典」
- 〔2年〕「類義語辞典」
- 〔3年〕「歳時記・季語辞典」「四字熟語辞典」「古語辞典」「ウェブ上の辞典」など



# 考える書写

自分の文字が変わっていく喜びを感じてほしい。

平成28年度版

『現代の書写』は、

自らの文字に

対する課題に

気づき、考える

プロセスを

大切にします。

## 基礎基本の 定着

文字の書き方の基礎基本に気づき、らせん的に学びを積み上げることで習得します。他の文字を書く場面でも活用できるようになります。

## 伝統的な 文字文化の継承

伝統的な文字文化に親しみ、文字への興味・関心が育ちます。

# 考える

## 日常に生きる 行書の力

行書を日常生活の場面で捉え、ふだんの文字を読みやすく速く書くための行書の基礎基本を理解・習得することができます。

「考える書写」。

それがこの

教科書の目指す

書写学習の

あり方です。

## コミュニケーション としての 書写の力

書写をコミュニケーションの観点で捉え、相手・場面を考えた効果的な文字の書き方を身につけることができます。

●なぜその技能が自分の文字を向上させることにつながるのかを考える。

●習得した技能を別の場面で活用することができないかを考える。

●読み手がどう受け止めるかを想像し、目的や読み手に適した効果的な書き方を考える。

この教科書で学ぶことをとおして、そのような「考える」学習態度、書写態度が身につくことを重視しました。それによって、

生きる力を支える確かな書写の力が育まれると考えています。



# 1 学びをひろく 楽しさ

書写の学びは、生活や他の学習活動にひらいていくと俄然面白くなる。身につけた書写技能が役に立ったという喜びを意欲として次の学習へと還元していく、そうしたポジティブな学びのサイクルをつくりたい。そのためには、考えながら学び、考えながら書くことを習慣化する。「考える書写」ともいえる学習のあり方が必要と考える。

他の点画や文字に活用できてはじめて技能として成立する。そのためには、字形や筆使いに内在するルールの理解が必要であり、その過程に思考が伴う。そうした思考を習慣化するために、学習の流れを工夫したい。

### 日常に生きる行書の力

「考える書写」の出発点は、基礎基本の習得と定着である。自動車教習所で習得した運転技能が他の自動車・他の道での運転に生かされるのと同じように、書写技能は同一構造

### 基礎基本の定着 (図1)

「聞き書きする」「手紙を書く」といった生徒たちの書字活動のリアルな場を思い浮かべると、これまでの楷書の技能だけではいささか不自由である。読みやすい字を速く書くことができる行書の習得は、生徒の日常書字に大きな変化をもたらすと考

える。行書学習のあり方について、詳細は別ページにゆずるが、「考える書

写」による基礎基本の定着と、日常にひろく思考を大切にしたい。

### 伝統的な文字文化の継承 (図2)

加速する情報化により、生徒たちを取り巻く文字環境には偏りが生じてきている。現代を生きる生徒たちにバランスのとれた文字感覚を育むために、伝統的な文字文化の学習を工夫したい。伝統的な文字文化の学びを、知識としてだけでなく、日常での書写技能の運用を支える文字感覚の学びとして示してはどうか。調べ学習などを採り入れて、多様な文字を見ながら徐々に思考を巡らせた

### コミュニケーションとしての書写の力 (図3)

文字はコミュニケーション・ツールである。相手や場面を踏まえて効果的に文字を書く力を身につけることができたなら、読み手とのコミュニケーションはより円滑なものになるだろう。書くことも楽しくなるに違いない。

文字による円滑なコミュニケーションを支えるのは、楷書と行書を使いこなす力であり、先人の築いてきた文字文化への理解を背景とした確かな文字感覚である。「現代の書写」では、「考える書写」を基軸として、基礎基本からコミュニケーションへの応用に至るまでの学びの一貫性を大切にしている。

学習の成果を生かす楽しさを糧に、次へ次へと意欲的に学ぶ生徒たちの姿を、この教科書をおして目にしてもらいたい。

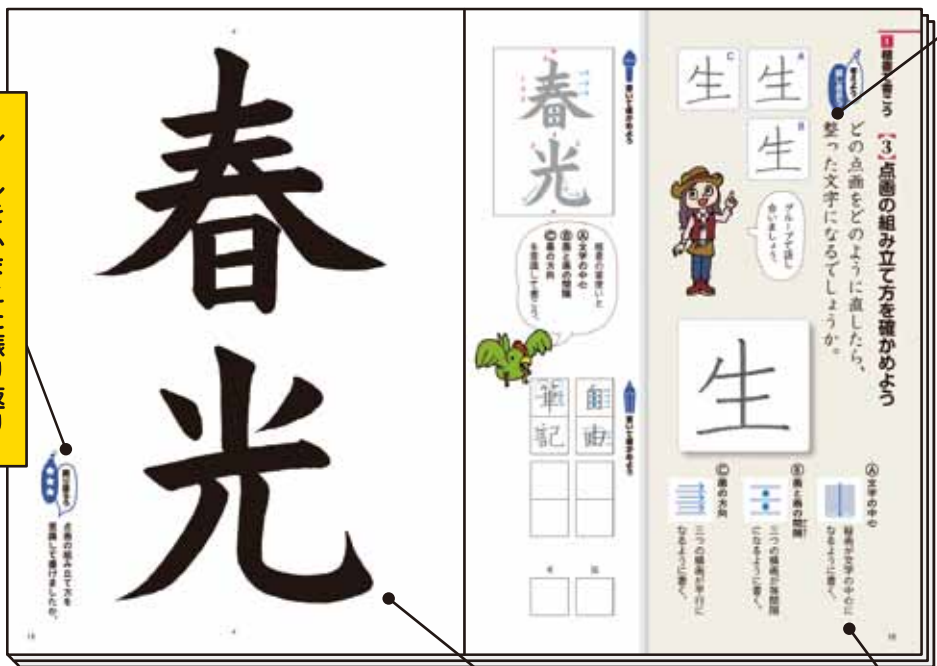
広島大学 松本 仁志  
まつもと・ひとし



広島大学大学院教育学研究科准教授。書写のキャリアキュラム開発に専心。著書に『筆順のはなし』『書くこと』の学びを支える国語科書写の展開がある。

〈図1〉基礎基本の定着

ルールへの気づきにいざなう問いかけ



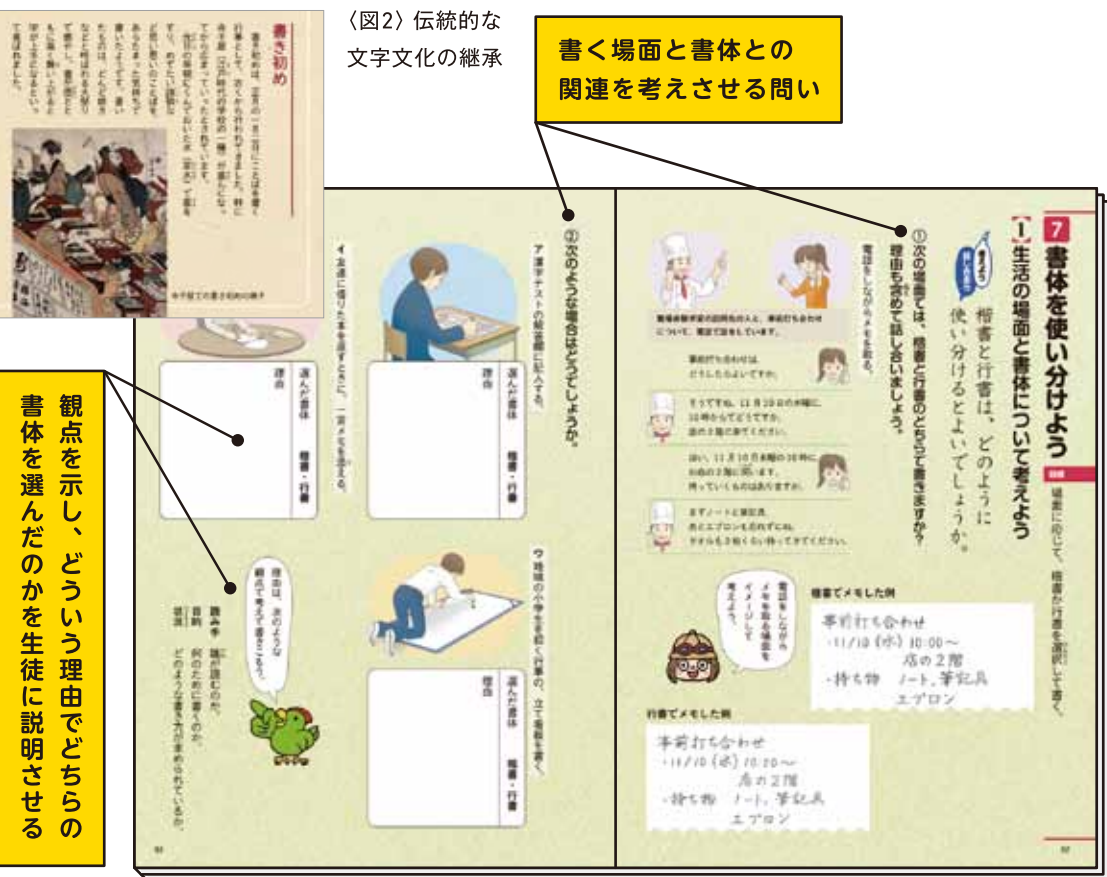
ルールをふまえた振り返り

書いて確かめる・身につける

考える

〈図2〉伝統的な文字文化の継承

書く場面と書体との関連を考えさせる問い



〈図3〉コミュニケーションとしての書写の力

観点を示し、どういう理由でどさらの書体を選んだのかを生徒に説明させる



# 2 行書の学び

## 大人の書く字「行書」

中学生は、良くも悪くも大人の世界に近づきたいと思う世代だろう。それが書写においては、大人の書く字としての行書であってほしいと思う。ところが近年、IT端末の普及によって、手で文字を書く機会は激減した。身のまわりの手書き文字で思い浮かぶのはクイズ番組の解答くらいだろうか。その多くは、中学生にあまり見せたくないような書きぶりである。日常的筆記の通常書体であるべき行書が、身のまわりから失われつつある。

### 行書の導入のあり方

かめなければ、以後行書とは無縁の人生を送ることになる。規範となる行書を見る機会が日常生活にほとんどない現状では、自分の文字を見直すことも少ないだろう。中学校書写の果たすべき役割の大きさを考えざるを得ない。

中学校書写における行書の導入ページは、様々な工夫されてきた。近年は楷書との比較を通じてその特徴を理解することや、単に形の相違だけではなく、運動面やリズム感も重視されるようになってきた。

このような文字環境のもと、中学校書写、特に行書の学びは重要である。生徒が高校で書道を選択しなければ、行書を学ぶのは中学校の三年間しかない。ここで行書の技能をつ

得なければならぬ。『現代の書写』の行書導入ページ(図1)の特徴は、行書がなぜ速く書けるのか、その「ヒミツ」を生徒に探らせるところにある。まず

は楷書の「生」と行書の「生」を指でなぞることで、なるほど行書は速く書けそうだと感じてもらいたい。次に筆記具を持ち、時間を制限して実際に「生」と書いてみる。我流の書き方では、速さと読みやすさを兼ね備えるのは困難であることを理解させ、行書の有効性・必要性へと結びつける。

### 行書へのあこがれ

活字文化全盛の現代にあって、行書に限らずなぜ手書き文字が存在するのか。実用面だけでなく、広く存在意義を考えさせたい。商品パッケージや様々な題字・看板等に、手

書き文字が使われるのはなぜなのか。芸能人やスポーツ選手の手書きのサインを、なぜファンは求めるのか。昔から言い伝えられてきた「書は人なり」という捉え方も中学生には理解できるだろう。身のまわりの手書き文字を紹介しながら、興味をもたせていきたい。

香川大学 小西 憲一  
こにし・けんいち



香川大学教育学部教授。教員養成課程にあって、書写書道の楽しさを伝えられる教員の育成に取り組んでいる。専門は近代篆刻史および篆刻制作。

〈図1〉『現代の書写』行書導入ページ

〈図2〉『現代の書写』行書導入の前のページ

# ユニバーサルデザインへの取り組み

平成28年度版『現代の国語』『現代の書写』

## 人と環境にやさしい教科書づくり

すべての生徒にとって学びやすいように、ユニバーサルデザインに取り組んでいます。環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい用紙とインキを使用しています。

### ● 特別支援教育の観点から

全ページにわたって、特別支援教育の専門家による校閲・検証を十分に行っています。

### ● カラーユニバーサルデザイン(CUD)

専門家の指導と校閲のもと、編集しています。色覚の特性を考慮して、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しています。

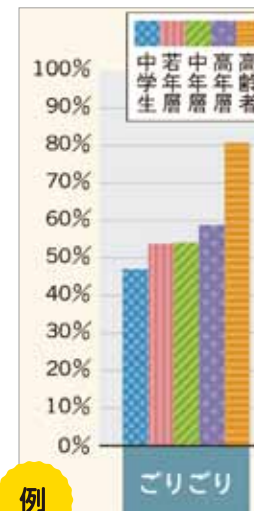
### ● 拡大教科書の作成

教科書の活字を大きくするだけでなく、内容のまとまりをとらえやすいようレイアウトを工夫するなど、よりよい拡大教科書を作成します。

※ボランティア団体等の「教科用特定図書等」の作成を支援するため、文部科学省を通して教科書のデジタルデータの提供を行っています。

古典教材の現代語訳では、色覚の特性による見え方の差が少ない「青色」を用いています。

#### ● 『食感のオノマトペ』のグラフ[一部](1年P.84)



色だけの違いに頼らず、色の濃淡や罫線、形の違い、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。



● 『竹取物語』(1年P.105)

# SNP

サポート・ネットワーク・プログラム  
のご案内

### Webサイト

【教科書専用ページ】  
<http://tb.sanseido.co.jp/28/>



### 生徒用教材

【学習者用デジタル教科書】  
など

詳細は裏表紙へ



### 指導用教材

【指導者用デジタル教科書】  
など

詳細は裏表紙へ

### 学習辞書など



- 『例解新国語辞典』
- 『例解新漢和辞典』など

## 平成28年度版 『現代の国語』 『現代の書写』

### 教育情報誌

- 『教育最前線』

### 教育実践、研究書 など

- 『変わる学力、変える授業。』
- 『思考力を高める授業』
- 『国語授業における「対話」学習の開発』
- 『読書の力』
- 『インプロする組織』 ほか

### 国語教育情報誌

- 『ことばの学び』
- 『ことばの学びニュースレター』

### 教師用指導書

- 学習指導書 [各学年：上下巻]
- データCD-ROM
- 朱書編 [各学年1冊]
- 「読み方を学ぼう」活用ガイド
- 評価資料・テスト問題例集・朗読CD など

※指導書・教材類は企画中のため、内容・仕様等について変更する場合があります。

三省堂国語教育

ことばの学び  
KOTOBANO MANABI

平成28年度版

『現代の国語』『現代の書写』教科書特集号

2015年5月20日発行

編集・発行人○北口克彦  
発行所○株式会社三省堂 〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 / TEL 03(3230)9446(編集)  
印刷所○泰成印刷株式会社 〒130-0026 東京都墨田区両国3-1-12

平成28年度版『現代の国語』『現代の書写』

# 指導者用デジタルテキスト 学習者用デジタルテキスト

ご案内

## 指導者用 デジタル テキスト

教科書をそのまま再現！

簡単に紙面拡大！

各種資料も豊富に収録！

プロジェクターでスクリーンに映したり、電子黒板や大型ディスプレイを使用したりして、教室中が一つの画面を見ることを想定したデジタル教科書です。いまどこを読んでいるかがわかる音読再生機能や、内容理解の一助となる各種資料などが搭載されています。



## 学習者用 デジタル テキスト

導入の進む学習者用タブレット端末に向けて、教科書紙面を掲載した学習者用デジタルテキストの登場です。書き込みや拡大縮小などの基本機能のほか、古典の暗唱用シートなど、一人一人のペースで学習を進めるための工夫を盛り込みます。指導者用との連携でワークシートなども活用できます。

※機能や画面デザイン等は製品版と異なることがあります。

CoNETS 版  
デジタル教科書

三省堂は、CoNETSプラットフォームを通じてデジタル教科書を提供してまいります。

### CoNETSの特長

- 1 CoNETSビューア・各社共通の操作性
- 2 教科をつなぐCoNETSリンク
- 3 先生と生徒、生徒と生徒がつながる端末間通信
- 4 作業状態をそのまま保存できるスナップショット
- 5 オリジナルの教科書や教材が作成できるエディター

<b>三省堂</b>	〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14	03-3230-9411(編集)・9551(営業)
●大阪支社	〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3	06-6341-2177
●名古屋支社	〒460-0008 名古屋市中区栄3-25-43 瑞穂ビル4F	052-252-9211・9212
●九州支社	〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1	092-531-1531・1532
●札幌営業所	〒060-0042 札幌市中央区大通西12-2-1 ラスコム15ビル3F	011-616-8722

※本誌は、一般社団法人教科書協会「教科書宣伝行動基準」に則って作成しております。